

鹿児島の昆虫33

ハチたちの暮らし

昆虫担当 金井 賢一

ハチといえば「ブンブン飛び回り、刺してくる」という印象をもっている人が多いでしょう。しかし、皆さんが気付くような飛び方をするのは、ほとんどが集団を作る社会性のハチ、スズメバチやアシナガバチ、ミツバチなどのことです。これらのハチには、巣を守るために近づいた人を刺すものもいます。

そのような集団生活とは別に、ハチの中には孤独にひっそりと生活し、卵も産みっぱなしにするという種類もたくさんいます。代表的なものが寄生蜂です。世界中に何種類いるのか、正確には分かっていませんが、とにかくたくさんの種類がいます。



(左:アゲハヒメバチ 右:ハチの脱出した蛹)

寄生蜂は、母バチが寄生する相手(宿主)に忍び寄り、産卵して立ち去ります。宿主は何事もなかったように食事をして成長します

が、しばらくするとからだの中を食い尽くされて、死んでしまいます。このように相手を殺してしまう寄生を、捕食性寄生と言います。怖いですが、立派な生きていくための戦略の一つです。

また、狩りバチの中にも巣の中にもものを隠して産卵した後、立ち去るものがあります。ベッコウバチやアナバチなどがそうです。



クロアナバチ

世界中に名前が付いているだけでも12万種類いるというハチですので、生きていく手段もさまざまです。そのような比較をしながらハチをながめてみると、今までとは違う、「へえ〜!」という気持ちでハチと付き合えますよ。巣を守る働きバチには十分注意して、観察してみてください。

鹿児島の植物38

マメ科のつる植物

植物担当 大屋 哲

秋の頃、道路沿いや川の土手などで、紫色や黄色の花を咲かせたり、枝豆のような果実をつけたりするマメ科のつる植物を見かけます。秋の七草の「クズ」に比べると小ぶりですが、いろいろな場所で樹木やフェンスなどに絡まって生えているものがあります。

山地の道路沿いで明るく開けた場所などに生えるのは、「ヒメクス」です。小さなクスということでこの名前がつきました。別名はノアズキともいい、黄色の花を咲かせます。マメ科の花は多くが左右対称であるのに対して、ヒメクスは下の花びらが横にずれてついており、左右非対称になっています。



ヒメクス

人里に近い林縁や川の土手などに生えるのは、「ヤブマメ」です。うすい紫色の花を咲かせます。豆果(マメ科の果実)には



ヤブマメ

3個の種子が入っていて、表面に毛があります。やぶに生えるからこの名前がつきました。

山地の林縁や林内に生えるのは「ノササゲ」です。葉がうすく、葉脈が白くなり、斑入りのようになります。花は黄色ですが、豆果が鮮やかな紫色になるのが特徴です。



ノササゲ

日当たりのよい開けた場所や、道路沿いや公園の生け垣などに生えるのは、「タンキリマメ」です。昔、この種子を食べて痰が出るのを治したからこの名前がつきました。花は黄色ですが、豆果は赤く、さやが開くと両脇に光沢のある黒い果実をつけます。



タンキリマメ

これらのつる植物は、この時期、花と豆果が一緒についていることもあるのでじっくり観察してみたいでしょうか。